令和6年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
5	川崎市立臨港中学校	迫田 しの

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
・自他を愛し、素直で、誠意ある人の育成 ・責任感強く、たくましく、勇気ある人の育成 ・礼儀正しく、質実、清楚な人の育成	・基本的な生活習慣を身につける中で、自分の良さをみつけ、生活を向上させる力を育む ・互いの個性や特性を理解しあい、より良い人間関係を築いていく力を育む ・学習指導を充実させる中で、基礎・基本の定着を図り、「生きる力」を育む

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	確かな学力の育成	○基礎的・基本的な知識・技能の定着 ○個に応じた指導の推進 ○入り込みによる学習支援 ○思考力・判断力・表現力を高める学習指導の充実と工夫 ○進んで学習に取り組もうとする態度の育成	・生徒の視点に立った分かる授業の展開に努めた。特に手本となる授業を全員で観察し、また相互の授業も観察しあいながら改善を行った。学校評価ｱﾝｹｰﾄや全国学力学習状況ﾃｽﾄ等の結果からも成果がうかがえる。 ・各教科や総合的な学習の時間でも表現活動を重視しGIGA端末等を効果的に活用し授業を行った。 ・学年主任、支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、SCが授業を巡回し、教科を超えた教員の入り込みも行い困っている生徒を積極的に見つけ出して学年職員等と共有するとともに支援を行った。 ・学校の全職員で評価評定の研修を行い教科や学年を超えて信頼性妥当性等について検討した。	・「分かる」と実感できる生徒が増加している。今後も100％を目指し各教科のよい取組を学校全体で共有し進めていく。 ・評価評定についても、ｱﾝｹｰﾄでは良い結果がでている。より生徒や保護者が納得し理解しやすくなるよう信頼性・妥当性について全職員で協議し確認する。 ・ｷｬﾘｱ在り方生き方教育、人権尊重教育を土台にして総合・道徳・各教科の関連を意識した年間計画を作成し、推進する。 ・総合的な学習の時間の探究活動について検討する。 ・支援教育を充実させ、困っている生徒を教員側から積極的に見つけ個に応じた教科指導の工夫をしながら、早い段階で入り込み、取り出しの授業を行う。
2	いのち、心の教育の推進	○基本的生活習慣の定着 ○生徒指導の充実 ○人権尊重教育の推進 ○道徳教育の充実 ○教育相談活動の定着化 ○いじめや暴力は許さないという学校環境の構築	・登校と同時に職員が生徒を見守り心身の状態を確認し、連絡のない欠席生徒については、朝学活の時間までに家庭 との連携を必ず行い生徒の安全確認等に務めた。 ・教育相談週間を設けｱﾝｹｰﾄと教育相談を行い、生徒理解に重点をおき生徒指導等を行った。問題行動の未然防止にもつながった。 ・人権尊重教育の充実を図り、LGBTQ＋の職員研修と生徒向けの講演会やオンブズパーソンの授業等を行った。 ・道徳教育を充実させ、学年会等で授業を検討し全員が授業を行った。道徳教育への職員の理解が深まった。 ・生徒の主体性を生かした生徒会活動や行事運営を行った。行事や生徒総会でも、生徒がGIGA端末を効果的に使用することができた。	・全職員で生徒指導（生徒理解）方針を確認し共通理解を図る。夏季研修等でも生徒指導の情報交換と支援教育に重点をおいた生徒指導やLGBTQ、授業力向上、探究的な活動の進め方等の研修を実施する。 ・再度、教員の話し方や姿勢等を見直し生徒から話しやすい雰囲気を作っていく。 ・人権尊重教育を学校全体で推進し、教職員や生徒の人権に関する意識をさらに高めていく。 ・生徒会活動や部活動、行事運営等で生徒が主体的に考え活発な意見交換をしながら折り合いをつけることを学び、活躍の場を多く設定できるよう、引き続き推進していく。
3	健康、安全教育の推進	○健康・体力の向上 ○自主的に健康な生活を実践することのできる資質や能力の育成 ○安全に関する指導の充実 ○学校敷地内における事故防止 ○大規模修繕工事（第二期）の推進 ○給食のスムーズな運営	・薬物乱用防止教室、健康教育の授業等を実施した。性に関する講演会も行った。学校医の先生方との連携も深められた。 ・養護教諭が中心となり、生徒の保健委員会が定期的に生徒ｱﾝｹｰﾄをとり、学校課題を生徒が主体的に解決する活動を行った。全校生徒の健康に対する意識が高まった。 ・避難訓練、防災訓練を行った。雨天時にはDVDやワークシート等による学習も取り入れた。 校内点検を定期的に行った。危険と思われる箇所があるが、大 ・規模修繕工事と合わせて生徒の安全を第一に市教委と対策について考える。 AED研修、アレルギー対応等について職員研修を実施した。	・生徒ｱﾝｹｰﾄより健康に対する意識が高まったことがうかがえた。来年度も他機関と連携し、生徒が主体的に ・自分の心身の健康状態を意識し考えられる講演会を企画する。 ・学校保健委員会での生徒の発表、本校の健康診断結果からの傾向や学校医の助言や学校全体のｱﾝｹｰﾄ結果等について継続して職員や家庭でも状況が把握 ・できるよう発信する。 大規模工事（第三期）が生徒や職員に負担なく、安全に進められるよう市教委と調整する。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
4	家庭・地域から信頼される学校づくりの推進	○生徒の健全育成に向けた学校・家庭・地域との信頼関係・協力関係の推進 ○学校評価・学校教育推進会議の充実と活用 ○地域教育会議との連携	・授業参観や学級懇談会を実施した。また月末に2日間の学校公開日を設けて保護者や地域の方に来校していただき学校の様子を見ていただいた。 ・体育祭、合唱コンクール、文化発表会等の学校行事は保護者や地域の方々に参観していただくことができた。 ・学校保健委員会を3年ぶりに開催し、生徒、教員、保護者、学校医、学校薬剤師等で現在の課題と解決に向けての協議をした。 ・地域教育会議の支援によりコロナ後に新たな形で職場体験学習ができた。 ・学校教育推進会議を開催し、地域の方や保護者、教員に加えて生徒20名の参加により活発で充実した意見交換ができた。地域の行事に生徒と職員が参加できた。	・毎月、月末2日間の学校公開日を継続して、学校の様子や授業等を公開していく。 ・ホームページの更新、学校だよりや学年だよりの定期発行を引き続き行う。 ・ミマモルメの使用について（現在は重要で、かつ緊急性のある連絡のみに使用しているが学校からの連絡全般に使用するか等）協議・検討する。 ・コロナ後の地域とのつながりを大切にしながら、来年度はｺﾐｭﾆﾃｨｰｽｸｰﾙを立ち上げる。
5	支援教育の体制づくり 登校支援	○登校支援のための居場所づくり ○支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ、生徒指導担当、学年主任等との連携による生徒支援の推進	・週1回の主任会の場で困っている生徒（学習面、人間関係、いじめを訴えている、家庭で困りを抱えている、体調不良等）の情報を共有し、可能な支援について協議・検討し、実践した。 ・別室の体制について生徒ごとに適切な運営を検討し、利用する生徒と保護者には運営の説明とﾒﾘｯﾄ、ﾃﾞﾒﾘｯﾄ等について説明を行った。 ・入り込みを行ったことで、学習で困り感のある生徒から「個別に学習したい」という要望があり、取り出し授業を行った。生徒の学習に対する意欲が高まった。	・引き続き主任会を行い、そのメンバーを中心に学校全体での個々の生徒への支援方法や実際の対応を検討する。 ・別室の体制については1年を通して行えるように教員配置をしていく。 ・引き続き、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ、生徒指導担当、支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、学年主任等が連携し、早い段階でも生徒支援を充実させていく。 本校の特徴にあったきめ細かい生徒支援を行うために、教員の人材確保について市教委に要望していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・学習や行事、部活動等で生徒が仲間を大切にして良い雰囲気で学校生活を送れていると感じる。これを継続していくことが大切で、大変なことである。生徒、先生方が協力して、この状態を続けてもらいたい。 ・大変だった時代とは違い、生徒の生き生きとした発言から充実した学校生活を送っていると実感できた。 ・校内の掲示物が充実していて、現在の生徒の活動や考えが分かり整理されていてとてもよい。活動の振り返りを生徒が共有できるよう工夫されている。 ・生徒、教職員ともに努力をしっかりとしていると感じた。部活動や生徒会活動、行事にも熱心だと感じる。次回は話題を絞って意見交換をしたい。 ・そろそろ「大変だった頃」という前置きを生徒にしない方が良いと感じる。新たな臨港中学校で頑張っていることを率直に認めてあげたい。生徒や先生方も努力しているので。	・全職員が「分かる授業」「評価の妥当性」について、今年度の自己目標を掲げ、その実現に向けて大切にすべき視点を持ち授業観察を行った。教員同士がお互いを尊重しながら指導・助言する事が日常的にできた。結果、生徒ｱﾝｹｰﾄの「授業が分かる」の項目でとてもそう思うと答えた生徒の割合が大幅に増えた。学年を超えた職員のつながりもでき、チームとして授業について検討することができた。来年度も引き続き協力体制と授業力等の向上を目指す体制を続けていきたい。 ・今年度は5教科を中心に専門教科によらないT2を配置し、生徒の学習支援を丁寧に行った。結果、生徒から取り出し授業の要望も増え対応することができた。来年度も個に応じた支援 を行い、特別支援教育を含む学校全体の支援教育のさらなる充実を目指し、学習で困っている生徒への支援や不登校生徒への支援につなげたい。 ・学校全体で生徒理解に力を入れ情報共有しているため生徒ｱﾝｹｰﾄでも良い結果がでている。一方でで生徒が相談しやすい教職員の雰囲気には、一部に課題が残っている。COを中心とした教職員の研修を行いSOSの出しやすい学校を目指す。